

サプライチェーンマネジメント

仕入先様とのパートナーシップとサプライチェーン全体の最適化を重視したCSR調達への推進

ムラタはこれまで「公平」「公正」「誠実」を基本とする調達方針にもとづき、仕入先様との共存共栄を目的としたパートナーシップの構築を進めてまいりました。特に品質面では、仕入先様とともに固有技術や管理技術の改善に取り組み、技術レベルの向上や不良率・歩留まりの低減などを図ってまいりました。今後もこれまでの取り組みを継続し、ステークホルダーの皆様との共栄を図るべく、さらにその内容を深化させていきたいと考えています。

一方、人権や児童労働、強制労働、性別・宗教による差別の禁止、責任ある鉱物調達など、調達におけるCSR活動の対象範囲をサプライチェーン全体に拡大することも求められています。ムラタでは、調達活動における人権問題を重要課題のひとつとして認識し、日々リスクの低減に向けた活動を行っています。

これらを具体化するため、ムラタグループ「調達方針」と「仕入先様に求める姿勢・行動」を見直すとともに、新たにお取引を開始する仕入先様や、既存仕入先様へのリスク評価の方法も見直しました。

ムラタグループ「調達方針」と「仕入先様に求める姿勢・行動」

昨今のESGへの世界的な要求の高まりを受けて、「調達方針」と「仕入先様に求める姿勢・行動」の見直しを行いました。

調達方針	「調達基本方針」
	「調達行動指針」
仕入先様に求める姿勢・行動	「仕入先様に求める姿勢」
	「サプライヤー行動規範」※

※「サプライヤー行動規範」は、「ムラタグループサプライチェーンCSR調達ガイドライン」内に記載。

調達方針

ムラタは、経営理念にもとづき持続可能な社会の実現に取り組んでいます。この考えのもと、「調達基本方針」と「調達行動指針」から成る調達方針にもとづき活動しています。方針に従い行動することで、仕入先様との強固なパートナーシップと長期視点での協力関係を築き、サプライチェーン全体で持続可能な社会の実現を目指してまいります。

「調達基本方針」

ムラタは、下記基本方針にもとづき調達活動を行います。

1. 遵法

法令・規則、社内規定を遵守し、社会倫理に従って業務を遂行いたします。

2. 公正

グローバルに広く門戸を開放し、取引機会の均等を図ります。

3. 公平・誠実

仕入先様と信頼関係・協力関係を築き、仕入先様とのパートナーシップを強固なものとするを旨とします。

4. 社会的責任

調達活動を通じて、人権、環境などの社会的責任を果たしていきます。

「調達行動指針」

ムラタは、下記指針にもとづき行動いたします。

1. 法令・社会規範の遵守

2. 健全な事業経営の推進

3. 品質・納期・安定供給の重視

4. 需要変動に対する対応力の強化

5. サプライチェーンBCPの構築

6. 環境に配慮した部材供給

7. 情報セキュリティルールの遵守

8. 人権の尊重と労働環境への配慮

9. 健全な取引関係の維持

10. 責任ある鉱物調達の推進

仕入先様に求める姿勢・行動

調達方針の見直しにともない、仕入先様に求める姿勢・行動も見直しました。

詳細はウェブページをご参照ください。

仕入先様に求める姿勢・行動
<https://corporate.murata.com/ja-jp/csr/people/suppliers>

また、「Responsible Business Alliance(RBA/責任ある企業同盟)行動規範」(以下、RBA行動規範)をもとに、情報セキュリティや事業継続計画(BCP)、輸出入管理などを加えた考え方を「ムラタグループサプライチェーンCSR調達ガイドライン」(以下、ガイドライン)として制定しました。この中で、仕入先様に遵守・実践いただきたい内容を「サプライヤー行動規範」として明示しました。

ガイドラインは日本語・英語・中国語でウェブサイト公開するとともに、既存の仕入先様へ配布し、新規に取引を開始する仕入先様に対しては取引前に配布しています。

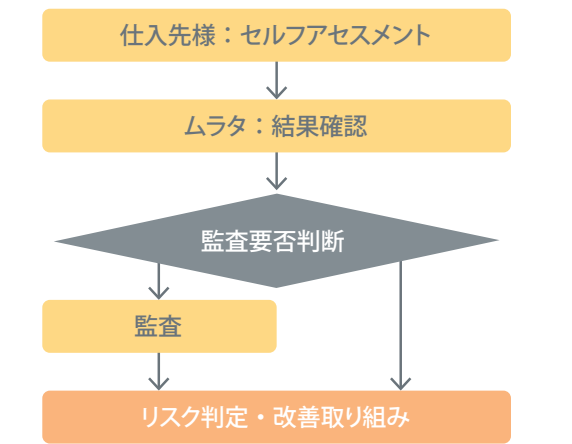


仕入先様のリスク評価(監査)

- 新たに取引を開始する仕入先様

取引開始時には「CSR同意書」を締結し、上記ガイドラインに同意いただくとともに、ガイドラインにもとづく「CSR順守状況チェックリスト」(以下、チェックリスト)によりセルフアセスメントを実施していただいております。さらに、重要仕入先様に対しては、品質管理体制・化学物質管理体制とともに、CSR面のリスク評価と改善のために、仕入先様の監査も開始しました。セルフアセスメント・仕入先様の監査のいずれにおいても、リスクが確認された場合にはともに改善策を検討、是正し、その結果を踏まえて取引を開始しています。

現在は日本国内での運用が主ですが、今後は想定されるリスクに応じ、海外の仕入先様へも拡大していく予定です。



- 既存仕入先様

ムラタの調達方針やガイドラインのご理解と浸透を図るとともに、仕入様ご自身でCSR上のリスクを認識して改善いただくことを目的に、チェックリストを用いたセルフアセスメントを毎年仕入先様に実施いただいております。ガイドライン制定にともない、チェックリストの内容も見直し、2020年度は主要仕入先様である154社を対象に調査を実施しました。

その結果、調査依頼した仕入先様からの回答回収率は100%を達成し、いずれの仕入先様も致命的なリスクはございませんでした。なお2社について軽微なリスクが確認されましたが、すでに是正を完了いたしました。

	対象	実施社数	是正対象件数	ローリスク仕入先様比率
2019年度	主要仕入先様	110	0	100%
2020年度	主要仕入先様	154	2	97%

今後は、仕入先様のセルフアセスメントによる評価に加え、仕入先様を訪問しての監査とリスクが確認された場合には改善取り組みを予定しています。

ムラタはこれからも一層拡大・高度化していくCSR調達について、ステークホルダーの皆様が安心できるサプライチェーンの確保を推進してまいります。

責任ある鉱物調達への推進

背景

コンゴ民主共和国（DRC）およびその隣接国などの紛争地域および高リスク地域（CAHRAs）※1で採掘される3TG（スズ・タンタル・タングステン・金）およびコバルトが、武装勢力への資金供与、強制労働や児童労働を含む人権侵害、環境破壊、資金洗浄などの不正行為につながる事が懸念されています。以下、責任ある鉱物調達を推進するためムラタが実施している取り組みについて紹介します。

目指す姿

当社製品に使用する鉱物がCAHRAsにおいて、武装勢力への資金供与、人権侵害などの「OECD Annex IIリスク※2」がないことを確認するため、OECD デュー・ディリジェンスガイダンスに基づいた適切な評価（デュー・ディリジェンス）を継続するとともに、Annex IIリスクに関与しないことを目指します。

取り組み内容

責任ある鉱物調達を推進するため対応方針を定め、自社製品に含有する対象鉱物のCAHRAsにおけるAnnex IIリスクの有無について管理する仕組みを構築しています。サプライチェーン上の製錬・精製業者を特定するために業界標準であるRMAP（RMIが推進する製錬所監査プログラム）※3に準拠した調査を行い社内基準に沿って評価し、リスクの高い製錬・精製所を使用している場合はそのリスク内容を伝達し、改善に向けた取り組みを進めています。お客様からのサプライチェーン情報提供のご要望に対しては、調査した結果を基にRMI（Responsible Minerals Initiative）※4が発行するCMRT（Conflict Minerals Reporting Template）に加え、CRT（Cobalt Reporting Template）にもとづくコバルト情報の提供も行っています。

責任ある鉱物調達方針、OECD Due Diligence Guidance 5ステップに準じた取り組み
https://corporate.murata.com/ja-jp/csr/people/suppliers

現状認識と課題と取り組み

ムラタでは、提供する情報に変化がないかを確認するため、仕入先様に対して定期的な調査を継続しています。これまでの紛争鉱物調査において、主力製品である積層セラミックコンデンサをはじめ、インダクタ、サーミスタ、圧電製品などについては、すでにコ

ンフリクトフリーであることを確認しています。

2020年度の紛争鉱物調査では、3TGを取り扱う主要仕入先様200社を対象として調査を実施し100%の回答を得て、310社の製錬所を特定しました。また、コバルト調査では104社に対し調査を実施し、83%の回答を得て45社の精製所を特定しました。全体を通じて77%がRMAP適合であることを確認しています。

	金	スズ	タンタル	タングステン	コバルト	合計
製錬所および精製所総数	159	73	36	42	45	355
コンフォーマント認証を受けた製錬所および精製所総数	109	62	36	40	26	273

今回の調査を通じてムラタでは、大きく分けて3つの課題を認識し、取り組みを進めていくことが重要であると考えています。

課題①RMAP適合製錬・精製所からの調達率改善について

仕入先様に対して、RMAPに適合している製錬・精製所を使用するよう、管理体制の構築、リスク評価の実践をお願いしています。しかし、現時点においてRMAP適合率は100%に達しておらず、ムラタのすべての製品においてAnnex IIリスクに関与していないことを保証することが難しい状態です。

取り組み

RMAP適合製錬・精製所以外の使用を報告された仕入先様に対し、ムラタから一方的にサプライチェーンからの排除を要求していくのではなく、現状の課題を共有し、課題解決に向けて協議しながら改善活動を進めていきます。

課題②コバルト調査回答率100%に向けた取り組みについて

コバルト調査においては、法令対応ではないことから、仕入様の取り組むべき優先課題になりづらく、調査への協力が得られないケースがあります。

取り組み

仕入先様へ製錬・精製所の開示を促すレターを送付するなど引き続き調査へのご理解・ご協力を求めています。

課題③3TG、コバルト以外のリスクが懸念される新たな鉱物への対応について

近年においては、3TGやコバルト以外の鉱物におい

ても、CSR上のリスクの有無について、お客様からのお問い合わせが増加しています。ムラタはRMAPに基づいたリスク評価を行っていますが、RMAPがサポートしていない新たな鉱物については、そのリスク査定を行う方法がなく安全性を担保するのが困難です。

取り組み

昨年よりマイカもRMI管理対象へ追加されました。現時点で当社製品にマイカの使用は確認されておりませんが、今後リチウム、銅、鉛、ニッケル、亜鉛などといった対象鉱物の拡大やリスクの高まりに対して、製品への使用状況の確認から取り組んでいきます。これまで以上にお客様、仕入先様、業界関係者などと密接に連携することでサプライチェーンの透明性を確保し、人権問題などのリスクも考慮したCSR調達に引き続き取り組んでいきます。

業界活動を通じた課題への取り組み

ムラタは電子情報技術産業協会（JEITA）「責任ある鉱物調達検討会」※5、RMIの会員企業であり、業界のイニシアティブである団体に属することで業界全体の仕組みづくりなど個社では限界のある課題に対しても積極的に取り組んでいます。

取り組み①

コバルトの調査は始まって間もないことから3TGに比べ、RMAP適合となっていない製錬・精製所も多く存在します。JEITA「製錬所支援チーム」※6の一員としてRMAP未参加の製錬・精製所に対して受審を促す活動も行っています。

仕入先様へのCSR調達活動展開

調達方針にもとづき、2009年から管理体制の構築やリスクの低減を図るなど、サプライチェーンの透明性確保に向け取り組みを行っています。今後も仕入先様と協働し、公正な事業活動に取り組んでいきます。

		2009年	2013年	2016年	2019年	2020年	2021年	2022年	・・・
CSR調達方針の展開		EICC（RBA）行動規範の展開				CSR調達ガイドラインの制定・配布			
	リスク評価	セルファセスメント実施				定期監査実施予定			
	新規に取引開始する仕入先様					セルファセスメント実施 新規採用監査実施			
紛争鉱物への対応		CMRTによる回答開始（3TG：タンタル、スズ、タングステン、金）				CRTによる回答開始（コバルト）			
						マイカなど新たな鉱物への対応			

取り組み②

JEITA主催の「責任ある鉱物調達説明会」に講師として参加し、この説明会を通じて仕入先様を含む多くの企業様と最新情報を共有し、取り組みの重要性について理解を深めていただくよう、教育、啓発を行っています。



取り組み③

リスクが懸念される新たな鉱物について、RMAPのサポートが効率的に進むよう、問題点の整理や仕組みの提案などをJEITA検討会で積極的に議論しRMIへ提言しています。

- ※1 Conflict Affected and High Risk Areas（紛争地域および高リスク地域）
- ※2 Annex IIリスク
紛争地域および高リスク地域からの鉱物の採掘、取引、取り扱い、および輸出に関連して発生する可能性がある重大な悪影響のリスク
- ※3 RMAP（RMIが推進する製錬所監査プログラム）
http://www.responsiblemineralsinitiative.org/responsibleminerals-assurance-process/
- ※4 RMI
http://www.responsiblemineralsinitiative.org/
- ※5 JEITA「責任ある鉱物調達検討会」
https://home.jeita.or.jp/mineral/index.html
- ※6 JEITA「製錬所支援チーム」
https://home.jeita.or.jp/mineral/about/support.html